

令和 8 年度学校教育の情報化指導者養成研修 実施要項

1 目 的

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」は、ICT を個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に必要不可欠なツールであるとともに、教師の業務負担を軽減し、働き方改革を実現する上でも極めて大きな役割を果たしうるものと位置付けた。このことを踏まえると、校務の情報化等の ICT 環境を整え、ICT 活用指導力の向上を図る必要がある。これらを円滑に実施するためには、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。

本研修では、参加者が学校教育の情報化に関する専門性を生かし、学校や地域の諸課題の改善に向けた組織的な取組を推進する力と、教職員の専門性向上を支える力を身に付け、それらの力を発揮できるようになることを目的とする。

2 主 催 独立行政法人教職員支援機構

3 共 催 文部科学省

4 期 間

(1) 令和 8 年 10 月 22 日（木）～ 10 月 23 日（金）

(2) 令和 9 年 1 月 20 日（水）

※本研修はインターバル型研修として実施するため、参加者は全日程の参加を前提とする。

5 実施方法 Web 会議サービスを用いた同時双方向通信によるリアルタイム・オンライン研修
（「Zoom ミーティング」（株）Zoom ビデオコミュニケーションズ）等を使用）

6 配信元 独立行政法人教職員支援機構 つくば本部
（〒305-0802 茨城県つくば市立原 3 番地）

7 標準定員 150 名

8 参加者

(1) 参加資格

ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者（学校教育の情報化のための整備活動に係わる者を含む）

イ 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、学校や当該地域において、教職員に対し本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者

ウ 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生のうち、教職経験のある者

※「第 6 次男女共同参画基本計画」（令和 8 年 3 月 13 日閣議決定）を踏まえ、本研修における女性教職員の割合を 25%以上とすることを、当機構として目標としている。女性の積極的な推薦について配慮されたい。

(2) 推薦人数

各都道府県教育委員会においては 2 名程度とする。各指定都市教育委員会、各中核市教育委員会、各都道府県知事部局、附属学校を置く各国公立大学、国立青少年教育振興機構等においては 1 名程度とする。なお、中核市を複数有する都道府県においては、各中核市からの推薦数を 1 名以内とした上で、上記基準を超過して推薦できるものとする。ただし、超過は各中核市から推薦があった人数分に限る。

(3) 推薦手続

推薦期限は、令和 8 年 9 月 25 日（金）とする。

推薦する機関においては、候補者を取りまとめて「研修システム」により推薦を行う。ただし、中核市教育委員会においては、〔様式1〕により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

(4) 参加者の決定

推薦する機関からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。ただし、標準定員を超過する場合は、参加者数を調整することがある。そのため、「研修システム」により推薦を行う際に、候補者毎に推薦順位を入力すること。

9 研修内容

別紙「日程表」のとおりとする。

10 事前課題

(1) 研修成果活用計画書の作成

参加者及び所属長は事前に「研修成果活用計画書」を作成し、提出すること。なお、様式、提出方法等については、参加者決定時に別途連絡する。

(2) その他の事前課題

その他の事前課題がある場合は、参加者決定時に別途連絡する。

11 研修成果の活用

本研修は、参加者の研修成果を各学校や当該地域で活用することを前提としている。そのため、研修終了後、1年程度の期間を経た後に、研修成果の活用状況（研修企画、研修講師、他校訪問等）についてのアンケート調査を実施する。推薦者は、研修修了者に対し、研修成果を効果的に活用する機会の提供、確保等の配慮をすること。

12 その他

(1) 所定の課程を修了した参加者には、修了証書を授与する。参加者推薦の際に、必ず参加者の氏名を確認し、正確に記入すること。

(2) 本研修では、「Google Workspace」を利用する。利用に際し、Google アカウントや簡易マニュアルは当機構で作成し、参加者決定時に連絡する。

(3) 本研修では、Web 会議サービス「Zoom ミーティング」（(株)Zoom ビデオコミュニケーションズ）を用いて同時双方向通信を行う。参加に当たっては、当該ソフトウェアのインストールやインターネット通信環境の確保の他、相互に音声・映像をやりとりする協議等ができるよう、音声マイク・Web カメラ等の必要機器を備えた端末を、1人1台準備すること。

(4) 参加者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な参加環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いする。

(5) 「全国教員研修プラットフォーム(以下、「プラットフォーム」という)を利用している自治体からの参加者に関しては、プラットフォームへの本研修の修了状況の登録を当機構で行う。

登録に当たって、参加者のプラットフォームログイン ID が必要となるため、プラットフォームを利用している自治体は、推薦を行う際に研修システムより候補者毎にプラットフォームログイン ID を入力すること。

(6) 本研修の参加に際し、特別な配慮が必要な者（障害、持病等）を推薦する場合には、事前に当機構に相談すること。

令和8年度 学校教育の情報化指導者養成研修 日程表 令和8年10月22日(木)～令和9年1月20日(水)

【別紙】

8:45	9:00	9:30	10:45	12:00	13:00	16:00	16:15	17:00
10月22日(木)	受付	イントロダクション	(第1講)135分＋休憩15分	昼休憩	(第2講)165分＋休憩15分	休憩		リフレクション
			演習・協議		講義・演習			
			学校教育の情報化に向けて		子供の学びから問い直す教育DX			
			教職員支援機構		春日井市教育委員会 教育研究所 教育DX推進専門官 水谷 年孝			

8:45	9:00	9:20	12:20	13:20	16:20	16:35	17:00
10月23日(金)	受付	イントロダクション	(第3講)165分＋休憩15分	昼休憩	(第4講)165分＋休憩15分	休憩	リフレクション
			講義・演習		演習・協議		
			学校をどう動かすか		研修成果の活用に向けて		
			能美市立寺井中学校 校長 亀田 香利		教職員支援機構		

令和8年10月23日(金)～令和9年1月20日(水)								
各所属先での実践(研修成果の活用)								
※ 各所属先での実践の一部をこの期間に実施していただく予定です。 1月20日以降も実践をしていただくように考えております。								

8:45	9:00	9:20	12:00	13:00	16:20	16:35	17:00
1月20日(水)	受付	イントロダクション	(第5講)145分 休憩15分	昼休憩	(第6講)185分＋休憩15分	休憩	リフレクション
			対話		演習・協議		
			実践の共有		これからの実践に向けて		
			教職員支援機構		教職員支援機構		